

「社会につながる自己表現」とは何か

タイの大学で行った日本語エッセイクラスにおける実践
を事例として

タイ・カセサート大学教養学部日本語科

江崎 正

(えざき ただし)

今日の流れ

第一部 実践の背景にあるもの

- ①タイの社会、政治、教育
- ②学習者の将来
- ③わたしの教育観の変化

第二部 実践と振り返り

- ①エッセイクラスの概要
- ②エッセイクラスの流れ
- ③学習者の変化
- ④わたしの今の気持ち

第一部 実践の背景にあるもの

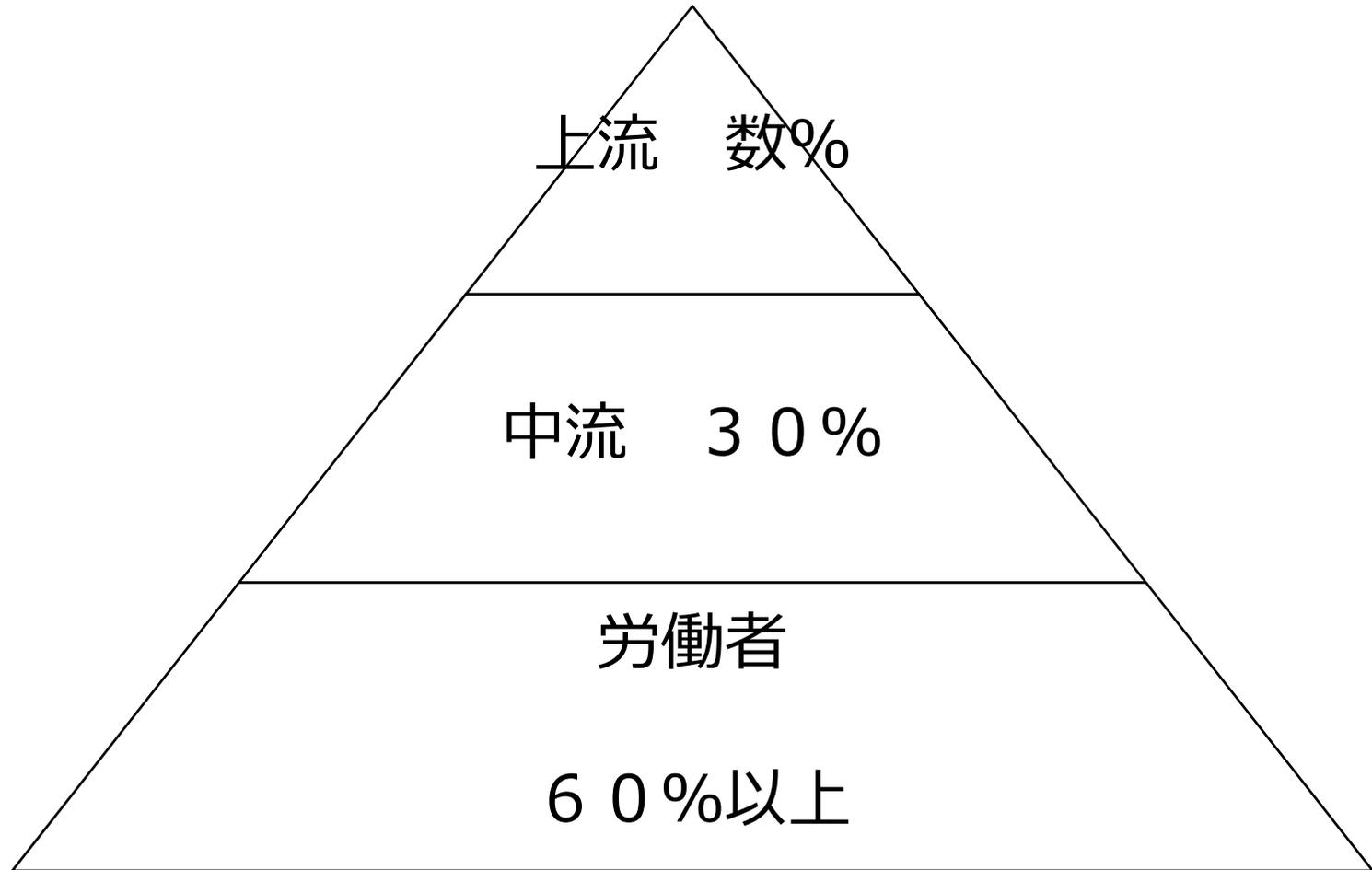
❖タイの社会

「階層社会」「格差社会」

階層は何によって決まるか？

社会的地位、経済力、教育的なバックグラウンド
違う階層とは交わらない、排他的なコミュニティー

ピラミッド型の階層社会



働いている人達

3分の1 サラリーマン、従業員

3分の2 農業、臨時雇い、小さな食堂や屋台

バンコク首都圏だけで全国電気使用量の70%を消費

税制

相続税が存在しなかった。2016年2月から5%の相続性導入。

金持ちは金を残せる。

UNOP（国連開発プログラム） タイ所得5階層分布

	1988年	2008年
第五階層（最高所得）	54.37%	55.06%
第四階層	20.62%	20.22%
第三階層	12.38%	12.42%
第二階層	8.05%	8.01%
第一階層（最貧困）	4.58%	4.30%

宗教

多くは上座部仏教

「輪廻転生」

今の自分の境遇は前世の行いの結果

仕方ない。今の人生で善行や徳を積んで、来世に備える。

「足るを知ること」が大切。

努力して出世競争して偉くなるという志向性は少ないかもしれない。

❖タイの政治

1932年 立憲革命で絶対君主制から立憲君主制、議院内閣制に

2001年1月下院総選挙 タクシン政権発足

2006年9月19日 クーデター

2007年12月 民政復帰

2010年4月 デモ隊と治安部隊衝突 死亡者約90名

2011年7月3日総選挙 インラック政権発足

2013年11月11日 大赦法案 強行採決

反政府デモ始まる

2014年5月22日 クーデター

❖ タイの教育

2015年度の経済協力開発機構(OECD)が72か国・地域の15歳を対象とした「学習到達度調査(PISA)」

タイ

科学的応用力 54位

読解力 57位

数学的応用力 54位

タイの教育の問題点

よく聞かれる教師の意見

学習者に主体性／積極性がない、受け身、質問しない

教師と学生の権力関係⇒教師中心

間違えることを怖がる⇒面子の問題

テスト 先生が言ったことをどれだけたくさん暗記するかを問う



自分で考え、自分でことばを選び取り、自分のことばで表現することに慣れていない。あまり重要視されていない可能性。

❖ 学習者の将来

大学卒業後に待ち受けている世界

- いくつもの国境線を超えていく
- 多様な背景を持った人々に出会う
- 違いに気づく、違いをことばで表現する
- 表現して理解し合う

自分で考え、自分でことばを選び、自分のことばを紡いでいく必要

❖ わたしの経歴

日本語教師養成講座修了後

2005年9月ー2006年6月

イギリス・カーディフ大学日本研究センター
(未経験者向けのポスト)

2006年10月ー2010年3月

タイ・ピブンスンクラーム・ラチャパット地域総合大学人文学部日本語科

2010年6月ー2011年10月

カーディフ大学に戻り、修士課程（応用言語学）を学ぶ

2012年6月ー現在

タイ・カセサート大学教養学部日本語科

❖わたしの教育観の変化

「言語スキルの上達（例えば、〇〇の正しさ）」やネイティブ教師のコピーだけでは、乗り越えられない切実な問題がある。

- 例えば、国会答弁、首相、官房長官、原発の専門家、ヘイトスピーチ、ネット右翼のことば など
- タイであれば、タイ人同士の間にある差別感、先入観と結びついたことば、権力を使って異なる意見（ことば）を排除する
- 学習者に待ち受けている世界

何のための「ことばの教育」か。

- ①学習者が育ってきたタイの社会／政治状況と教育環境
- ②近い将来、学習者に待ち受けている世界

❖大きな問い

タイの学習者にとって「ことばを使って表現する」とは何を意味するのか。

- ①タイの教育環境と学習者に「問い」を投げかける
- ②表現する場を作り出すこと

第二部 実践と振り返り

❖ エッセイクラスで目指したもの

- ① 先生と学習者の「力の関係」を変える
- ② 他者と出会うことで「何？ どうして？」や「伝えたい」を学習者から引き出す
- ③ 自分で考え、自分のことばで表現することに自覚的になる
- ④ 他者の意見を聞いて、違いを知る

❖ 前期エッセイクラスの概要

実施クラス：Japanese Essay Writing 1

前期 2016年8月－12月

16週間 1週間1.5時間×2回

学習者：4年生英語主専攻日本語副専攻

レギュラープログラム7名とスペシャルプログラム4名の学生

「みんなの日本語」37課まで勉強している。

人数：11名（2名は日本の大学のプログラムで1年間勉強した）

❖ クラスの特徴

- 卒業単位には直接関係のない科目
- 勉強したい学習者が履修する科目
- 学力差が大きいクラス

交換留学制度を利用して日本の大学で1年間勉強した学習者から既習項目の定着に不安がある学習者まで

- エッセイクラスと同時に、もう1つの日本語クラスをとって「みんなの日本語」38課から順に勉強している。（日本留学の学習者は50課まで勉強を終えている。）

❖ 前期の流れ Japanese Essay Writing 1

- 「自分語り」

自己紹介、わたしの町、
わたしの家族、わたしの趣味

- 雑誌に「タイ旅行のアドバイス」
を書く

- 「ウサギとカメ」

あなたはどちらのタイプ？

- 「意見＋理由」

どちらがいい？

必要？不必要？

- 日本の雑誌に紹介記事「タイの大学生生活」を書く

- 「どうしてわたしは外国語を勉強しているのか？」

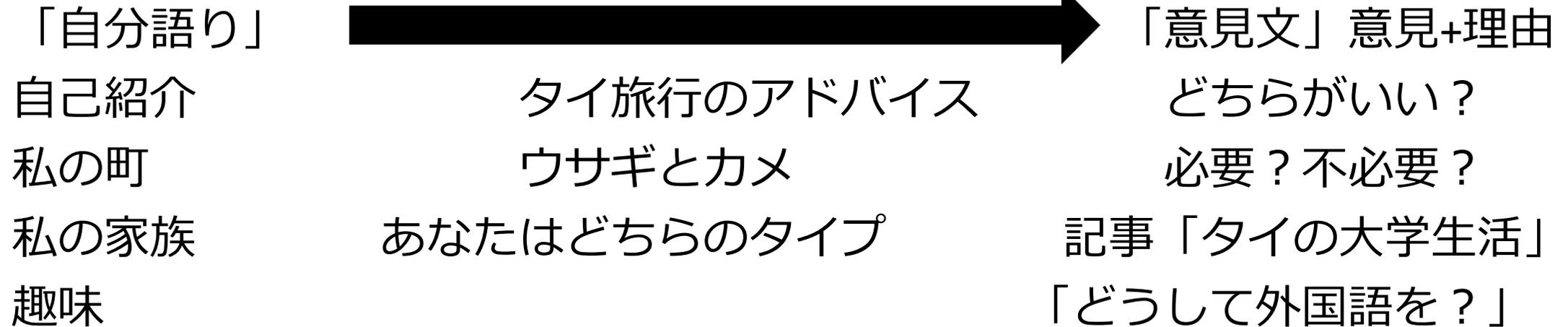
- Eメール文通スタート

「自分語り」のエッセイを再構成できる



❖ 前期の流れ (timeline)

Japanese essay writing 1



メール文通スタート

「自分語り」のエッセイを再構成できる

❖手順「自分語り」

1. 例を見せる 書かれた目的、構成、表現、キーワードを確認
2. 書き手（学習者）の状況を確認
どんな場面で、読み手はだれか
3. マッピング たくさんアイデアを出す
4. アイデアを言ってもらおう、共有する 違いを知る
5. 下書き
6. エッセイを書く

❖手順

「意見文＋理由」「一つの話から自分の話を作る」「問題発見シリーズ」

1. 例を見せる 書かれた目的、表現、キーワードを確認
2. 書き手（学習者）の状況を確認
どんな場面で、読み手はだれか
3. マッピング アイデアをたくさん出す
4. アイデアを言ってもらおう、共有する、違いを知る
5. 下書き
6. ピア活動 内容について、アドバイス
7. エッセイを書く

具体例

- 北風と太陽 資料 2 - 4
- カセサート大学の問題を考える 資料 5 - 9

❖ 後期エッセイクラスの概要

実施クラス：Japanese Essay Writing 2

後期 2017年1月ー5月

16週間 1週間1.5時間×2回

学習者：4年生英語主専攻日本語副専攻

レギュラープログラム4名とスペシャルプログラム1名の学生

人数：5名（3名は日本の大学のプログラムで1年間勉強した）

❖ 後期の流れ Japanese Essay Writing 2

- 雑誌のタイ特集の記事
自分の身近なタイ人を紹介
- ラジオ番組の企画書を書く
わたしのタイを日本へ伝える
- わたしの「北風と太陽」の話を作る
- 「問題発見と解決策」
 1. タイのごみの問題
 2. カセサート大学の問題
 3. タイの教育格差を少なくするために
- 「大阪の食べ物」の番組を見て
- 一行詩
- 連想ゲーム
- Eメール文通（前期から続いている。今はフェイスブックで友達になり、メッセージを交換している。）

❖ 後期の流れ (timeline)

Japanese essay writing 2

身近なタイ人を紹介
(雑誌のタイ特集で)
ラジオ番組の企画書
(わたしのタイを日本へ伝える)
わたしの「北風と太陽」の話を作る



- 「問題発見と解決策」
1. タイのごみの問題
 2. カセサート大学の問題
 3. タイの教育格差を少なくするために

「大阪の食べ物 (テレビ番組)」を見て
一行詩
連想ゲーム
大学生活を振り返って

Eメール文通
前期から)



❖一行詩

ユーモア、皮肉、比喩を使う、直接的に表現する
遊び心を持って、私達の日常を表現する

トピック：恋人

- 毒を入れたはちみつです。
- 大切じゃない！
- 星みたい、見えるけど取れない。
- わたしの心から好きです。

❖ 学習者の変化

- Eメール文通の例から

いろいろな「気づき」が学習者の中から出てきた

①「何だろう」や「どうして」

②「もっと教えてください」「わからないこと」を伝える

③相手の質問に対して答える時、「どう説明したらわかってもらえるか」の視点

Eメール文通で出てきたトピック

地域おこし協力隊、木枯らし、ランニング登山、
紙すき（和紙作り）

「地域おこし協力隊」から日本の現代社会の問題点を知る
口頭で説明しにくい季節に関連するテーマ（気候や風土が違うので）

もっと質問してみよう／自分で調べてみよう
卒論のテーマになる可能性
教師だったら、これをテーマに授業をしてみよう

異文化理解教育、国際理解教育、開発教育へとつながる

❖ エッセイクラスから出てきたもの

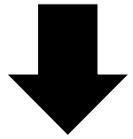
- ①いろいろな日本/多文化な日本の理解
- ②学習者個人が考えている自国の文化、状況と比較する視点
- ③教師への質問する回数が増えた。
質問の質の変化。まずは自分で考えた上で。
- ④「表現すること」と「自分の生活」がつながっている感覚

❖ 学生の声（アンケートから）

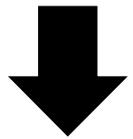
- みんなでいろいろな意見を共有できてよかった。
- 他の人の意見を知ることができた。
- 自分が気づけなかった意見やおもしろい意見を知ることができた。
- 意見を共有すると、いいエッセイが書ける。
- 英語やタイ語のエッセイクラスでは、どうやって考えるか、論理的に考えることを教わらなかった。
- メール文通で情報を交換するのが楽しい。違う文化を知った。
- チャレンジしなければいけないけど、書くことが楽しくなった。
- 最初はできないと思った。でも、できるようになって、書くのが楽しい。

❖わたしの今の気持ち

わたしにとっての「社会につながる自己表現」
体験／経験したもの＋想像力
自分と「そのこと」が関係していると感じる



「他者への働きかけ」
「他者理解への鍵」 「より深く自分を知る鍵」



自己表現とは「生きていること」そのもの

自己表現を支えるもの=エッセイクラスの活動全体（資料1）

- 4技能を使う
- 身近なところから考える
- 日頃何気なく見ているものを注意深く見る
- 他者の意見を知る、意見の違いを知る、意見を共有する
- 人間関係や状況の緊張を緩和させるためにユーモアを使う
- 直接性を避けるために比喻を使う

「ことば」と「私達の人生」と「私達が暮らしている社会」がつながっている言語教育

- ①自己表現を支えるものに出会う場を多く準備する
- ②学習者にそれらを体験してもらう



体験から出てきたもの

他者理解、自己理解
気づきから自ら行動を起こすこと
など

少しずつ



誰もが住みやすい、
暮らしやすい社会、
共生や平和に
つながる可能性

何かありましたら、

Email

ezakitadashi@hotmail.com

Facebook

Tadashi Ezaki

Faculty of Liberal Arts and Science, Kasetsart University